



沓掛小学校だより

12月号

未来を拓く ~元気・やさしさ・かがやく瞳~

NO. 572

<http://www.suginami-school.ed.jp/kutsukakeshou>

感受性を育てる

副校長 榎本 純子

先日の音楽会には、大勢の保護者・地域の方々に御来校いただきありがとうございました。受付名簿によると延べ約1160人の方が御参観くださったのですが、学年ごとに席を入れ替わるなど御協力いただいたことで無事に終了することができました。子供たちの澄んだ歌声やリズムカルな演奏で、体育館がコンサートホールになったような一日でした。

これまでの教員生活の中で、学芸会や展覧会は何度も経験してきたのですが、実は「音楽会」は私にとって初めてのことでした。ですから、音楽だけを皆さんに聴いていただくということがどんな感じになるのか、とても楽しみにしていました。1年生の元気いっぱいの歌声、2年生のオリジナル楽器を使った合奏、3年生のリコーダーの音を合わせようとする懸命な姿、4年生の高い声に挑戦している姿、5年生の堂々とした演奏、そして6年生の歌声には、思わず涙が出そうな感動を覚えました。その少し前11月13日に「荻窪音楽祭」があったのですが、そのときも、本校の吹奏楽団の初々しい姿や天沼中吹奏楽部の演奏を聴いて心が洗われるような気持ちを味わい、南相馬市立原町第一中の圧倒的な演奏には、久しぶりに心が震えました。このように音楽には人の心に直接働きかける、目に見えない大きな力があることを感じます。特に「生の演奏に触れること」は、テレビやスマートフォン等を通しての音楽を聴くこととは違う、何か大きな意味があるように思います。

11月に6年生は「茶道」と「華道」という2つの伝統文化を体験しました。一人一人が茶碗に

お茶をたて、心静かな時を過ごした茶道。グループで協力して花器に花を生けることを通して、普段の学習とは違うことを感じる事ができた華道。

「茶道の作法は美しく、日本の心があると思った。一つ一つが繊細で心が癒された。」「茶室の中だけで疲れがふきとび、心と体が楽になったような気がした。」「慌ただしい今の時代だからこそ、昔から伝わるよさを感じながら、落ち着いた場所で花を生けるのも必要だと思った。」「グループで花を生けたことで、人の意見を尊重して行動するという協力の仕方を学んだ。」このように6年生は、茶道や華道の作法や意味を知っただけでなく、心が落ち着くとか癒されるという気持ちを感じたようです。

美しいものを見たり聴いたりして純粋に「きれいだな。」と感じることや、伝統文化に触れることで心が落ち着くという体験を積み重ねていくことで、「感性」や「感受性」が育ちます。そのような豊かな心をもった子供は、きっと友達のよさを認める思いやりのある子になっていくのではないかと、そんな気がしてなりません。

本校では12月は5年生のお琴体験、4年生の美術鑑賞授業が予定されています。子供たちの心を育てるこれらの活動を、これからも大切に続けていきたいと考えています。

